

茨城県県北農林事務所
常陸大宮地域農業改良
普及センター

〒319-2255 茨城県常陸大宮市野中町3083-2
TEL. 0295-53-0116 FAX. 0295-53-1077
(大子駐在) 〒319-3361 茨城県久慈郡大子町頃藤6690-1
TEL. 0295-74-0461 FAX. 0295-74-0769
ホームページ [常陸大宮地域農業改良普及センター](#) 検索 ▲HP



県北農林事務所
X (旧Twitter)
いますぐフォロー



普及センターだより



▲小学生による有機米の稲刈り体験

有機農業の 取組推進

現在、国はみどりの食料システム戦略の一環として有機農業を推進し、茨城県も有機農業推進計画のもと、推進に力を入れています。普及センター管内でも常陸大宮市が、令和五年一二月、県内で初めてとなるオーガニックビレッジ宣言を行ったところですが、普及センターでも、市や関係機関と連携し、栽培技術面を中心に有機農業推進に取り組んでいます。

有機栽培は化学農薬や肥料の使用が制限されるため、通常とは異なる栽培管理が求められます。現在、普及センターでは、常陸大宮市で有機農業に取り組む四法人等に対し、県の研究機関とも連携し、有機栽培の基本となる土づくりや太陽熱処理など有機栽培する上で必要な技術の指導や、水田での生育調査、収穫調査、酸化還元電位の測定、水位センサーの設置等実証ほ設置による安定生産に向けた技術確立のためのデータ収集なども行っています。

一方、有機農業のすそ野を広げるため、令和五年から常陸大宮市と連携して有機農業技術研修会を開催し、有機農業に関心の高い生産者への技術・知識支援も行っています。この結果、令和五年度には、JA常陸大宮営農経済センター有機農産物部会が有機JASの団体認証を取得、令和六年度には令和五年度研修会受講者が団体認証に加わるなど、成果が見え始めています。

有機栽培された米や野菜は、市内の学校給食の食材として活用されているほか、道の駅常陸大宮くかわプラザの有機栽培コーナーで販売されています（有機栽培米「ゆうき凛々」など）。

普及センターでは、今後関係機関と連携して有機農業の取り組みを進めていきます。

水稲種子の浸種・ 催芽の留意点



令和五年産水稲種子は、登熟期間の高温により、休眠が例年よりやや深い傾向にあったため、出芽の遅れやばらつきが発生しました。令和六年産種子も令和五年産と同様に登熟期に高温に遭遇したため、出芽のトラブルが懸念されます。次の点に注意しましょう。

【通常より長めの浸種を】

左表のとおり浸種日数を例年よりも長く行ってください。浸種の水温は一〇度から一五度に設定します。水温が高いと出芽のばらつきの原因となるため注意が必要です。

【出芽が揃わない場合は催芽の延長を】

浸種終了後、水温三〇度の水につける催芽に移ります。通常一日で種子が少し出芽したハト胸状態となりますが、出芽しない場合は、ハト胸状態となるまで催芽を継続します。催芽を継続すると芽や根が伸び、播種作業の際に切れてしまうものもでてきますが、その後の生育には支障はありません。

品種	R6年産種子で参考とする 浸種日数目安 (水温10℃の場合)
コシヒカリ	13日間以上
ふくまる SL	
一番星	
にじの きらめき	14日間以上
ゆめひたち	12日間以上
その他主食用 品種及び月の光	11日間以上

リンゴ産地のブランド力 向上の取組



普及センターでは、JA常陸大子町りんご部会部会員の後継者組織であるJA常陸大子町りんご青年部(以下、青年部)が実施する高級果実専門店「京橋千足屋」との取引を支援しています。

青年部では、令和四年度から密入りが多く良食味の品種「こうとく」を「京橋千足屋」へ出荷し、令和六年度は一玉一二九六円と高値で販売されました。

普及センターでは、本取組を生産と販売の両面で支援しています。生産面では、個別巡回や勉強会開催支援により、安定生産につなげています。また、販売面では、果実の選果やPR支援を行っていきます。令和六年度には職作を成し、「京橋千足屋」との取引を各直売所でPRすることで、口コミ等によるブランド力向上につなげていきます。



▲産地のブランド力向上に取り組む青年部員ら

新任農業経営士の紹介

茨城県では、地域農業の振興や担い手育成に活躍が期待される優れた農業者を、知事が農業経営士として認定しています。令和六年度は、管内から一名が認定されました。



かんの だいし
菅野 大志さん(44歳)

菅野氏は埼玉県の出身。農業経営士のもとで一年間研修後、平成二二年新規参入により常陸大宮市に就農、「おひさまのいちご園」を経営しています。

現在は、六品種を二五a栽培し、庭先や道の駅での販売の他、JAに出荷しています。奥久慈いちご経営研究会の会長も務めており、地域のリーダーとして、今後の活躍が期待されます。

枝物でドローン現地検討会を開催

近年、農業生産の場面でドローンを活用する事例が増えています。そこで普及センターでは、一〇月、栽培が増えている枝物栽培で、ドローン活用の可能性を探るため、JA常陸大宮農機センター・JA全農いばらき農業機械課と協力して、ドローン現地検討会を開

催しました。

当日は、JA常陸奥久慈枝物部会員など一名が参加し、ウンリユウヤナギほ場にて、ドローンで水散布を実演、散布状況を確認しました。参加者からは「枝物にも使えそう」「導入してみた」「などの声があがり、関心の高さがうかがえました。



▲散布実演の様子

常陸大宮5Hクラブ本年度の取組

「常陸大宮5Hクラブ」は、常陸大宮市の若手農業後継者一名で構成され、経営感覚の醸成や地域を盛り上げる活動を行っています。

○横浜開港祭に出店

六月、他県JAと共同で出店し、クラブ員栽培の野菜を販売しました。他県JA青年部との交流も広がりました。

○ふるさと納税の取組

販路開拓や地域貢献活動として、本年度からふるさと納税事業に取り組んでいます。現在は、今後の商品づくりの検討を進めています。

※新たなメンバーを募集

和気あいあいと活動しています。興味のある方は普及センターまで。